View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Tokushima University Institutional Repository

平成27年度徳島大学総合科学部部局長裁量経費
総合科学部創生研究プロジェクト実践報告
グローバリズムとモラエス
—モラエスが世界に広げた〈徳島の自然・人・心〉の再構築—

宮崎隆義，石川榮作，佐藤征弥，境泉洋

徳島大学大学院総合科学研究部
〒770-8502　徳島市南常三島町1-1
E-mail: miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp

A Report of the Project Studies in 2015
Globalism and Moraes
—Reevaluation of Nature, People and Heart of Tokushima in the World through W. de Moraes—

Takayoshi Miyazaki, Eisaku Ishikawa, Masaya Satoh, Motohiro Sakai
Institute of Socio-Arts and Sciences, Tokushima University
1-1 Minami Josanjima-cho, Tokushima, 770-8502, Japan
E-mail: miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp

Abstract

This report is a record of the social action activities in 2015 of W. de Moraes financed by the Faculty of Integrated Arts and Sciences, Tokushima University. Moraes's Studies Group, launched on July 31, 2010, the members of which are Takayoshi Miyazaki (English Literature, Comparative Literature), Eisaku Ishikawa (German Literature, Comparative Literature), Masaya Satoh (Plant Physiology), Mtohiro Sakai (Clinical Psychology), all at the Institute of Socio-Arts and Sciences, Tokushima University, has been continuing analytical research on Moraes's works and trying to open new facets of Moraes's biographical aspects, including the social action activities of organizing exhibitions and lectures on Moraes with other groups in Tokushima.

As the basic activities, we have been organizing regular meetings every month or every two months, and have read Moraes's *O "Bon-odori„ em Tokushima*, *Ó-Yoné e Ko-Haru*, and we are now reading *Relance da Alma Japonesa*.

Our activities are further developing with the cooperation with other local groups in Tokushima, Kobe, Osaka and Tokyo; and also gaining connections with Portugal, after visiting Leiria, Coimbra and Lisbon in Portugal in March 2015.

Key Words: Wenceslau de Moraes, globalism, Tokushima, Moraes's Studies, social action activities

1. はじめに

本報告は，平成 27 年度総合科学部創生研究プロジェクト（部局長裁量経費）「グローバリズムとモラエス――モラエスが世界に広げた「徳島の自然・人・心」の再構築――」，平成27年度地域交流プロジェクト（部局長裁量経費）「モラエス館所蔵資料活用によるモラエス顕彰事業プロジェクト」，並びに徳島大学学長裁量経費平成 27（2015）年度パイロット事業支援プログラム（社会貢献事業）（継続）による研究成果及び実践の報告である。既に，一部は報告書として簡単に概要は報告しているが[1]，ここではもう少し詳細に研究成果並びに実践を補足し記録として残しておきたい。

本研究プロジェクトは，徳島県内の関連団体，関連機関と連携しながら，モラエスの顕彰事業を継続発展させると同時に，モラエス研究に新たな側面と研究の展開を図ろうとするものである。多様な連携によって，既にモラエス研究の貴重な資料も見つかっているが，顕彰事業を発展させ，モラエス関連の資料の整理と研究により，研究の充実と発展，並びに国内外の連携を基にしてのモラエス顕彰の充実化により地方創生に寄与することを目的としている。

2．事業の取り組み状況

モラエス研究会―平成 27（2015）年度の活動記録―

本事業プロジェクトは，平成 26(2014)年度に引き続いて採択を認められたものであるが，申請時に立てた将来計画を踏まえつつ平成 27(2015)年度の年度計画を具体化した。基本的な活動は「徳島大学総合科学部モラエス研究会」の例会・読書会であるが，毎月１回程度開催することを目標として，以下のように実施した。

研究例会・読書会の実施状況（平成 27 年度分）

・平成 27 年　4 月 25 日　【研究会例会・読書会】
・平成 27 年　5 月 30 日　【研究会例会・読書会】
・平成 27 年　6 月 27 日　【研究会例会・読書会】
・平成 27 年　7 月 25 日　【研究会例会・読書会】
・平成 27 年　8 月 29 日　【研究会例会・読書会】
・平成 27 年　9 月 26 日　【研究会例会・読書会】
・平成 27 年 10 月 31 日　【研究会例会・読書会】
・平成 28 年　1 月 30 日　【研究会例会・読書会】
・平成 28 年　2 月 20 日　【研究会例会・読書会】
・平成 28 年　3 月 26 日　【研究会例会・読書会】

毎回の読書会では，『日本精神』（岡村多希子訳，徳島県立文学書道館，2014 年）が刊行されたこともあって，これを読書会の題材として取り上げ現在に至っている。例会・読書会では，これまでのように教員が作品中で気づいたことを提示して，参加者相互で議論しながら，地元の参加者たちの記憶にある昔の状況などを貴重な情報として教示提供していただいた。

その研究成果として，論文及び報告書を『徳島大学地域科学研究』第 5 巻，並びに『徳島大学大学開放実践センター紀要』に以下のように刊行している。

論文：
・「モラエスの庭―(5) モラエスの著作の位置づけと第五回内国勧業博覧会―」『徳島大学地域科学研究』第 5 巻，宮崎隆義・石川榮作・佐藤征弥・境泉洋
・「モラエスと小説『孤愁〈サウダーデ〉』―新たなモラエス像の可能性―」『徳島大学大学開放実践センター紀要』第 25 巻，宮崎隆義

報告：
・平成 26(2014)年度徳島大学総合科学部学部長裁量経費総合科学部創生研究プロジェクト実践報告「グローバリズムとモラエス―モラエスが世界に広げた〈徳島の自然・人・心〉の再構築―」（宮崎隆義・石川榮作・佐藤征弥・境泉洋）

また，平成 26（2014）年 11 月 29 日に徳島大学総合科学部において開催したシンポジウム「神戸と徳島のモラエス」の報告書として以下のものを平成 27(2015)年 3 月 25 日に徳島大学より刊行しているが，その続刊第 2 号を平成 28(2016)年 3 月 25 日に刊行している。

・徳島大学総合科学部モラエス研究会編「モラエス顕彰による地方創生プロジェクト」論集 2 号

[1] 『平成 27 年度地域連携事業成果報告書』（徳島大学地域連携戦略室，2016 年 3 月 26 日），p. 10.

この第２号には，総合科学部からの支援で，佐藤征弥と宮崎隆義とが平成27(2015)年３月８日から14日まで，ポルトガルの徳島市の姉妹都市であるレイリアとコインブラ，リスボンを訪問した訪問記を掲載している。さらに，パウロ・ローシャ監督によるモラエスを描いた映画『恋の浮島』に関して，大竹洋子氏（岩波ホール前企画室長，元東京国際女性映画祭ディレクター，一般社団法人日本ポルトガル協会理事）より，映画製作と徳島ロケについての貴重な資料ともなる原稿を賜り，同号に掲載している。この映画については，平成27(2015)年暮れにDVD化されたこともあり，再び注目を集める可能性がある。さらに，ポルトガルのリスボン新大学の大学院生が，メディア研究の一環としてパウロ・ローシャ監督の『恋の浮島』について，その研究と調査のプロジェクトをオリエンテ財団に申請しており，宮崎隆義が，受け入れ教員並びに日本国内でのコンタクト教員として申請書に名を連ねている。今年の採択には至らなかったが，さらにプロジェクトを見直して再度申請の予定である。

３．モラエス顕彰―平成27(2015)年度の活動記録―

本研究プロジェクトに関連するモラエス顕彰事業として，平成27(2015)年度は，モラエス研究会として例会・読書会の関連事業として以下のものを展開した。

・ポルトガル「ファド講座」

日時：平成27(2015)年10月14日

ポルトガルギターの演奏者とファド歌手として活動している月本一史氏，遠藤治郎氏，MT（松岡哲也）氏を招いて，ポルトガルの文化を知るイベント活動の一環として開催した。

・阿波人形浄瑠璃講座：

日時：平成27(2015)年10月31日

場所：徳島大学総合科学部けやきホール

ポルトガル大使フランシスコ・シャヴィエル・エステヴェス氏ご夫妻並びに在ポルトガル前大使四宮信隆氏両ご夫妻が，平成27(2015)年10月31日から11月２日にかけて急遽来徳されることとなり，両ご夫妻をお迎えしての談話会，並びに関連事業として鶴澤友輔（三木千佳子）氏による「阿波人形浄瑠璃講座」を10月31日に臨時モラエス館及びけやきホールにて開催した。

・モラエス通り命名40周年式典

日時11月１日

場所：徳島市西富田公民館

11月１日には，モラエス通り命名40周年式典に，在日ポルトガル大使ご夫妻並びにポルトガル前大使ご夫妻をお迎えし，佐藤征弥が「モラエスとともに暮らす」と題して記念講演を行った。

また他に，徳島県立総合大学校の「まなびーあ徳島」で宮崎隆義が「モラエスの愛した徳島」と題して11月14日に講演を行った。

さらに，高校生向けとして，徳島文理高等学校で宮崎隆義が「グローバリズムと異邦人」と題して11月16日に講演を行った。

さらにまた，11月21日には第17回徳島県民文化祭分野別フェスティバルで徳島ペンクラブ主催の「モラエス文学の魅力」として宮崎隆義が「モラエスと小説『孤愁』―文章から浮かび上がる人物たち―」と題して特別講演を行った。

平成 28(2016)年 3 月 17 日には，上智大学ヨーロッパ研究所の市之瀬敦教授を招き，ポルトガルの歴史を知る企画として,「ポルトガル―独裁, 革命, デモ行進」と題しての講演会を開催した。

平成 28(2016)年 3 月 26 日には天理大学国際学部の深沢暁教授を招き,「もうひとりのラフカディオ・ハーン―ポルトガルの文人外交官モラエス―」と題しての講演会を開催した。

講演会や講座等については，いずれも徳島新聞や四国放送，ＮＨＫでも報道された。

このような「徳島大学総合科学部モラエス研究会」によるモラエスの顕彰事業がマスコミで取り上げられ報道された効果として,「徳島大学総合科学部モラエス研究会」の知名度も上がり，研究会例会・読書会への参加者も徐々に増えつつある。また，研究会代表の宮崎隆義による活動として，平成 26(2014)年度には四国コンソーシアムの e-learning の授業に「モラエスの徳島～グローバリズムと異邦人～」を企画し，後期に開講したが，現在も継続して開講している。

４．今後の展望

神戸の NPO 法人神戸外国人居留地研究会や, 大阪, 東京の日本ポルトガル協会とも連携が取れており, それによって論集 2 号の刊行が実現している。徳島大学総合科学部モラエス研究会の活動としての例会・読書会，及びモラエス顕彰事業の実施により，新たな資料も国内外から提供され，研究も一層充実している。また, ポルトガルの歴史や音楽文化に関わる講座や講演会を行うことで, 特に文化の面による大学の地域連携と地域貢献を強化することで, 地方創生に向けての大きな一歩ともなっている。同時に，モラエスというポルトガル人を取り上げることで, 大学や高校でのグローバル教育, 人文社会面でのグローバル展開に寄与できることも見込まれる。また，さらなる発展と研究の充実のために，日本学術振興会・科学研究費補助金の挑戦的萌芽研究に「グローバリズムにおけるポルトガル文人外交官モラエス顕彰の再構築」として申請を行った。さらにまた，前述したように，リスボン新大学の博士課程大学院生が，モラエスを描いた映画『恋の浮島』を中心とするプロジェクトを企画しポルトガルのオリエンテ財団に申請を再度行う予定であり, その申請に協力することとしている。こうしたモラエスについての研究と顕彰事業の継続により，平成 28(2016)年度には論集第 3 号を刊行する予定である。

また,「徳島大学総合科学部モラエス研究会」のブログが縁で, モラエスの遠縁の子孫でモラエスの研究も行っている研究者やその関係者, さらにポルトガル訪問が実現したことで, コインブラ大学の関係者とも連絡と連携体制が整いつつある。こうした取り組みと本事業プロジェクトとが連動して，研究面でさらなるテーマが生まれ，参加者のそれぞれが自分の立場から取り組んでおり，継続してモラエス研究の論文や活動報告などを刊行する計画である。

また，眉山山頂にあったモラエス館が改築のため平成 27(2015)年 3 月 31 日に休館し，その休館中の収蔵品の展示のため，モラエスの誕生日にあたる 5 月 30 日に，アミコビル 1 階の専門店街の一角と，総合科学部地域交流プラザ 1 階多目的室①に，臨時の措置としてモラエス館がオープンしたが，その所蔵資料を調査し整理精査して何らかの形で公表することを計画している。

地元の貴重な文化的な遺産であるモラエスを，若い世代に伝えることは我々の大きな使命のひとつと考えているが，例会やイベント等への学生の参加も少しずつ得られているので，さらに今後も各種イベントを周知し学生の参加を広げてゆきたい。モラエス研究とモラエス顕彰事業を通して，モラエスの作品についての十分な紹介を図り，同時に，グローバルということを常に考え意識しながら，学生や地域の市民，さらには他の地域に対してもモラエスを軸とする文化継承並びに地方創生の可能性を探っていくことを考えている。